

# 農作物生育・技術情報10号

日高農業改良普及センター日高西部支所  
JAびらとり JA門別町

## 1 水 稲

収穫作業は概ね終了しましたが、皆さんの手応えはいかがでしたでしょうか？全体的に収量はますますのようで、タンパク値は昨年より低いところが多かったようです。しかし、ゆめぴりかの外観品質の低下や胴割粒の発生が見られるなど、課題の残った年になりました。

### ○収穫後のほ場管理

#### (1) 稲わらの処理

稲わらは、ほ場に放置せず速やかに搬出する。

#### (2) 透排水性の改善

溝切りで表面排水、必要に応じ、サブソイラーで透水性を促す。

秋起こしを行う場合は、水田の乾燥状態を確認し早め(地温があるうちに)に行う。

#### (3) 畦などの確認

畦の補修や排水溝の掃除を行い、機能を回復させる。

#### (4) 土壌診断の実施

低タンパク米生産のためにも、3年に1度は水田の土壌診断を行い、収量や地力に合わせて肥料の見直しを行う。また、苗床のpH確認も合わせて行って下さい。

## 2 主要野菜

| 作物名                   | 生育状況   | 技術対策   |
|-----------------------|--|--|
| トマト                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・5～10段収穫中。</li> <li>・摘心済み。</li> <li>・うどんこ病、灰色かび病、ハモグリバエ類、オンシツコナジラミ、日焼け果、裂果が見られる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハウスの閉めきりは避ける。</li> <li>・雨天以外は早朝1～2時間側窓を開ける。</li> <li>・夜温13℃を目安に内張りカーテンや暖房機を使用し保温する。</li> </ul>                 |
| ハウス軟白ねぎ               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月定植収穫中。</li> <li>・黒斑病、ハモグリバエ類、アザミウマ類、葉先枯れが見られる。</li> </ul>                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・土壌病害虫が発生したほ場は計画的に土壌消毒を行う。</li> <li>・もみ殻は搬出する。</li> </ul>   |
| アスパラガス<br>(ハウス立茎)     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・9月下旬に収穫終了した。</li> <li>・茎葉の黄化が始まっている。</li> <li>・灰色かび病、斑点病が見られる。</li> </ul>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・茎葉が80%以上黄化し、地際部の茎の中がストロー状になったのを確認してから刈り取る。</li> </ul>  |
| きゅうり<br>(勇翔、ちなつ、オシャン) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生育は順調で、中～上段位の孫づるの収穫が進んでいる。</li> <li>・うどんこ病、べと病の発生が一部のほ場で見られる。</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・うどんこ病、べと病の防除には、予防効果の高い薬剤と、治療効果を伴う薬剤を使い分け、防除効果を高める。</li> <li>・気温の低下が予想される場合は、夜温13℃を目安に内張りカーテン等で保温する。</li> </ul> |

### 3 畑 作

(1) 秋まき小麦の雪腐病防除（なまぐさ黒穂病防除）

防除時期は根雪直前が最も効果が高くなりますが、散布後に降雨に遭遇すると効果が低下しますので、残効性の優れた薬剤を選択してください。

《防除例》フロンサイドSC 1000倍

【残効の目安】 散布後根雪までの積算降水量120mm（日最大降水量65mm）

### 4 畜 産

(1) 牧草の最終刈り取り

牧草の越冬のため、牧草に十分な再生量と貯蔵養分を蓄えさせましょう。

「刈取り危険帯」の刈取りを避けましょう。

(2) ギシギシの雑草処理 : 新播草地と経年草地

| 刈取り危険帯     |            |
|------------|------------|
| アルファルファ    | 9月下旬～10月中旬 |
| オーチャードグラス  | 10月中旬～下旬   |
| ペレニアルライグラス | 10月中旬～下旬   |

\*危険帯を避けるため、なるべく10月は刈取りを行わないようにしましょう(放牧地・新播の掃除刈り等)

は薬量が違います。

牧草(新播)

(水量100ℓ/10a)

| 薬剤名          | 使用時期・濃度  | 注意事項  |
|--------------|--|---|
| アージラン液剤      | 10月上旬～中旬<br>薬量：200ml～300ml/10a<br><br>ギシギシ類の栄養成長期                  | ・春期には種した草地（夏・秋は種草地は×）<br>・秋散布では散布当年は黄化するのみで、翌春に枯死する<br>・散布後14日間は放牧は行わない             |
| ハーモニー75DF水和剤 | 秋処理<br>薬量：0.5～1.0g/10a<br>ギシギシ類の葉が展葉し、ギシギシ草丈が20cm以下<br>夏は種草地は牧草定着後 | ・クローバーに対する薬害が著しい<br>・散布後21日間は放牧、採草は行わない<br>・他の作物に薬害を生じやすいので、散布に用いた器具類は専用の洗浄剤でよく洗浄する |

牧草(経年)

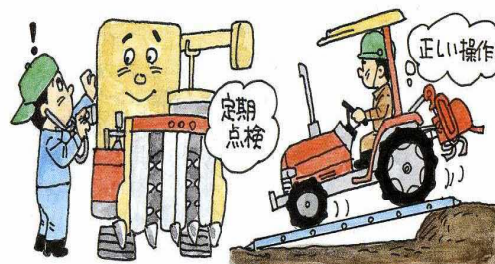
(水量100ℓ/10a)

| 薬剤名          | 使用時期・濃度                                       | 注意事項  |
|--------------|---|---|
| アージラン液剤      | 10月上旬～中旬<br>薬量：300ml～400ml/10a<br>ギシギシ類の栄養成長期 | ・最終採草後に行う<br>・秋散布では散布当年は黄化するのみで、翌春に枯死する<br>・散布後14日間は放牧は行わない                         |
| ハーモニー75DF水和剤 | 秋処理（採草・放牧21日前まで）<br>薬量：3g/10a                 | ・クローバーに対する薬害が著しい<br>・散布後21日間は放牧、採草は行わない<br>・他の作物に薬害を生じやすいので、散布に用いた器具類は専用の洗浄剤でよく洗浄する |

### 5 農作業安全対策

【農作業安全の実践・確認項目】

- 休憩を取り無理のない作業
- 農作業や機械作業に適した服装
- 点検・整備は、必ずエンジン停止
- 油断せず後方確認、足下注意
- 農道の走行時は路肩の状況を確認



秋の農作業安全運動期間です。ゆとりを持った作業を実施しましょう！